

袋井発信：名案探る

袋井市の静岡理工科大で六日、市職員と学生が一緒に地域の課題などを探る「地域学」講座が始まった。二十日まで、「シティプロモーション」をテーマに意見を交わす。
(宮沢輝明)



「シティプロモーション」をテーマに意見を交わす学生と市職員＝袋井市の静岡理工科大で

花火大会やメロン活用 理工科大生と市職員

市と大学が結び包括協定による取り組みの一つ。市職員五人と学生二十五人が参加した。

六日は市職員がイベント「ふくろい遠州の花火」や、特産品のクラウンメロンといった五つの市の地域資源を説明。四～六人の五グループに分かれ、地域資源を生かすなどして市の魅力を市内外に広く発信するためにはどうすればいいか、意見を出し合った。

七日は袋井クラウンメロン支所や津波避難タワーを視察。十九日に資料を作成し、二十日に政策提言する。

出身が沼津市の静岡理工科大二年の難波湧浩さん(三〇)は「袋井市との違いを学ぼうと参加した。しっかりと意見を述べられるようになり、将来の自分の向上につなげられるようにしたい」と話した。

この記事・写真等は、中日新聞社の許諾を得て転載しています

中日新聞
許諾済
H27.8.11.